

キヤノン株式会社
2023年経営方針説明会

イメージンググループ^o

2023年3月6日

専務執行役員 イメージンググループ^o管掌

山田 昌敬

Canon

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

一部画像を削除しております。

イメージンググループ事業分野

イメージングの役割を「撮る・見る」から、「映像体験」、「映像活用」へ広げ、
新しい事業領域を作る

体験する

活用する



2022年の成果と成長戦略（イメージング）

成果 グループ増収増益 利益率が大きく改善

利益率

- 2021年実績12.0%、2022年実績15.8%

カメラ

- ミラーレスのシェアを堅持
- EOS Rシリーズ初のAPS-C新製品が加わり販売台数増

ネットワークカメラ他

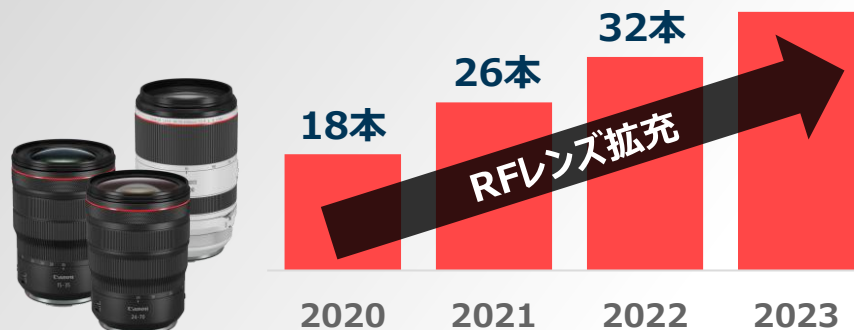
- ネットワークカメラはアクシスが大幅な増収で史上最高の売上
- 自由視点映像が米プロバスケットボールや国内のプロ野球放映で反響



成長戦略 現行事業で高い収益性を維持しつつ新規事業を創出

2025年グループ全体で売上1兆円を目指す

【EOS Rシステムの拡充】



カメラシェアNo.1 Rシステム強化

【動画指向顧客への展開】

クリエイター

“新しい”映像表現



報道

静止画・動画
ワンマンオペレーション



SNS配信

シンプルワークフロー
マネタイズ

一部画像を削除しております。

【VRシステムの展開】

認知拡大

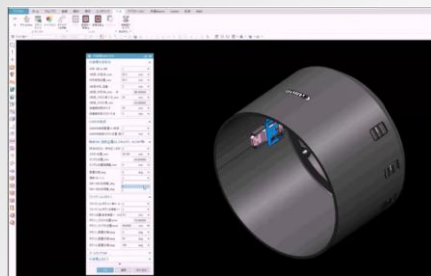
アプリ/ソフト
使いやすさ向上



VR映像環境づくり支援

成長戦略（収益体質強化）

【効率的開発体制】



生産性の向上



【内製化の推進】



【効率的生産体制】

DXの推進

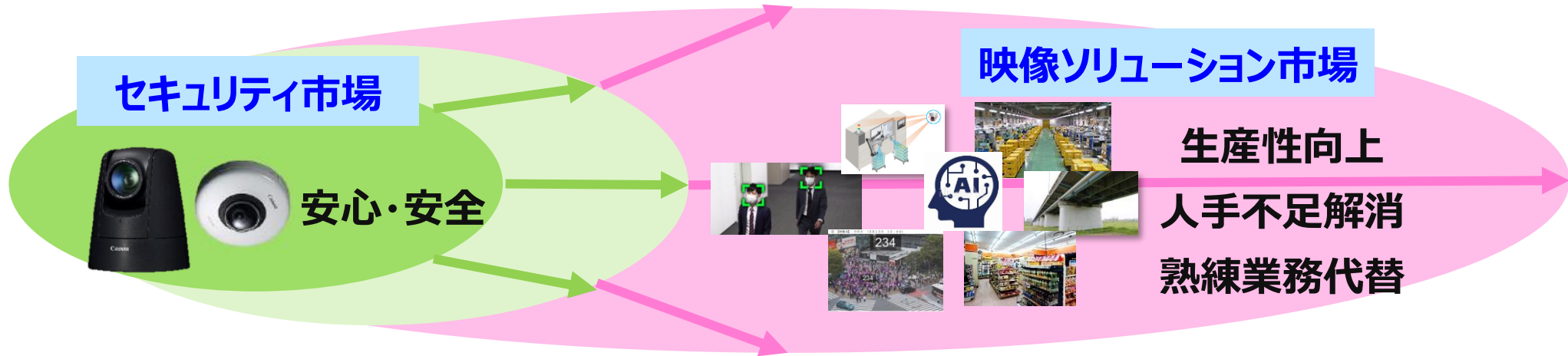


自動化の推進



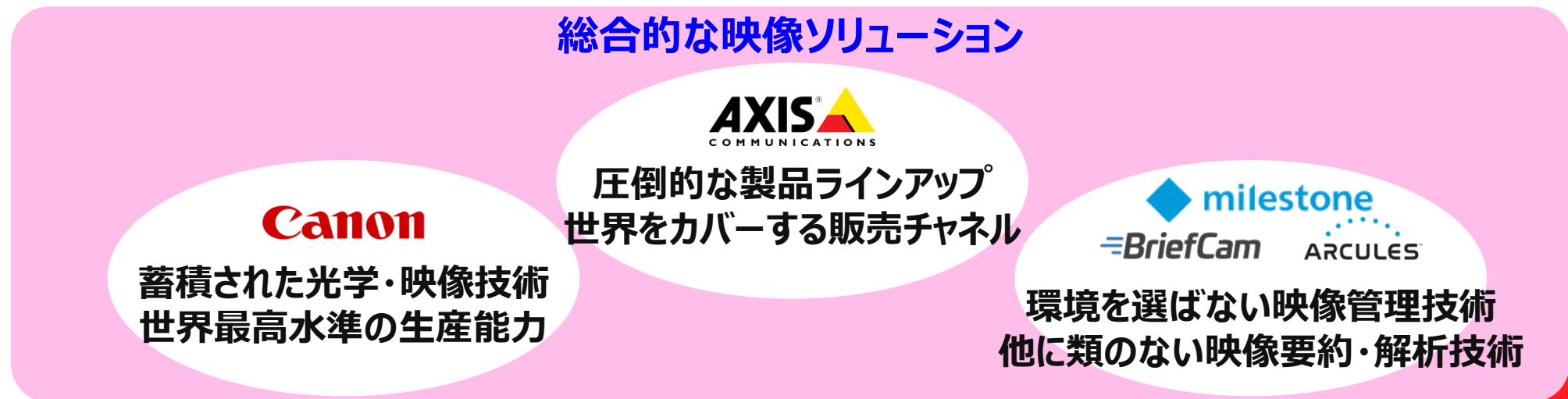
成長戦略（ネットワークカメラ事業の拡大）

ネットワークカメラ市場はセキュリティから映像ソリューションへ二桁成長



キヤノングループは世界市場※NO.1を維持しながら市場を上回る伸び率で成長

(※除中国)



成長戦略 （映像制作システムの進化）

映像制作市場での省人化・リモート化へのシステム対応



光学技術

映像処理技術

ネットワーク伝送技術

放送局

企業

教育

共通プロトコルで
ネットワークを介して制御



専用コントローラ

アドオンアプリで機能追加



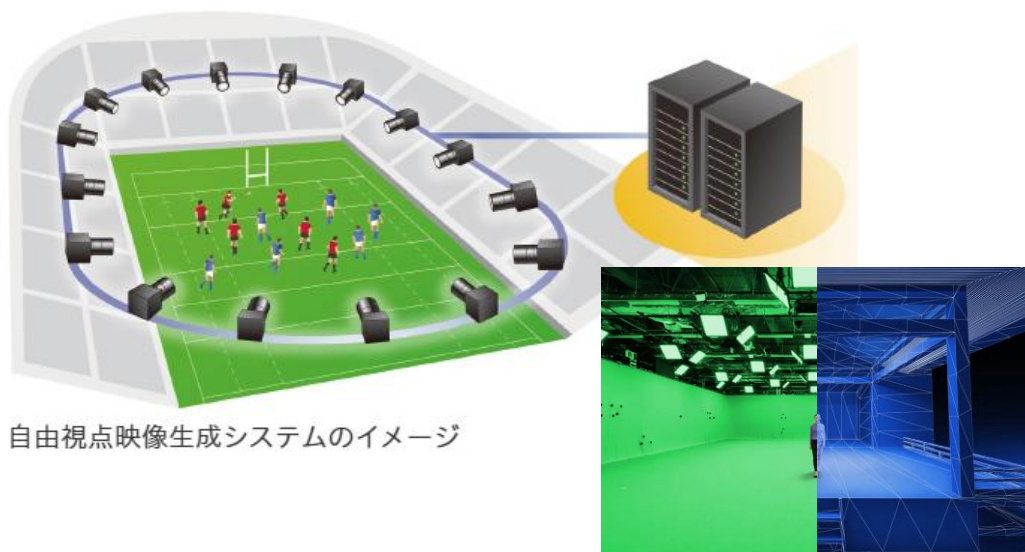
自動追尾機能

成長戦略（新たな映像体験への挑戦）

これまでにない臨場感と没入感で**市場を創出し**活用を広げる

ポリュメトリック映像（自由視点映像）

スタジオやスタジアムの実写から生成



自由視点映像生成システムのイメージ

使用例

米プロバスケットボールや国内プロ野球等の
スポーツ放映、CM、ミュージックビデオ等

XR

現実と3DCGを違和感なく融合



使用例

製造業でのバーチャル試作、生産ラインでの
作業姿勢や設備の設置場所の確認（MR）
ウェディング、ライブ配信等（VR）

成長戦略（高度監視への展開）

公共施設や重要インフラ等の監視領域にキヤノンの技術や製品の性能を活かす



1. 民生商品開発で得た 卓越したイメージング技術



高感度フルサイズCMOSセンサー搭載カメラ



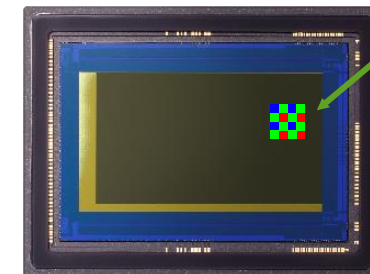
映像鮮明化技術

2. 他社の追従を許さない 豊富なレンズ群



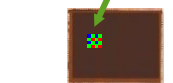
3. 高感度センサーの進化

35mmフルサイズ CMOSセンサー



画素ピッチ
19μm

画素ピッチ
6.39μm



1型SPAD
イメージセンサー

従来型の1/9サイズ 超低ノイズ
SPADセンサー搭載製品開発